



第24回

学生フォーミュラ日本大会 2026 特集

総合順位表 ICVクラス

順位	Car No.	学校名
1	C02	同志社大学
2	C01	京都工芸繊維大学
3	C10	九州工業大学
4	C03	大阪大学
5	C05	日本自動車大学校
6	C06	岐阜大学
7	C07	北海道大学
8	C09	千葉大学
9	C11	日本工業大学
10	C14	ホンダテクニカルカレッジ関東
11	C22	神戸大学
12	C04	Kasetsart University
13	C15	立命館大学
14	C26	京都大学
15	C21	岡山大学
16	C25	帝京大学
17	C32	芝浦工業大学
18	C19	北九州市立大学
19	C58	埼玉大学
20	C36	東京都市大学
21	C30	広島工業大学
22	C28	ホンダテクニカルカレッジ関西
23	C12	工学院大学
24	C17	日本大学理工学部
25	C42	東京農工大学
26	C08	茨城大学
27	C20	早稲田大学
28	C60	新潟大学
29	C41	東海大学
30	C34	大阪工業大学



総合順位表 EVクラス

順位	Car No.	学校名
1	E01	名古屋大学EV
2	E02	名古屋工業大学EV
3	E04	東京大学EV
4	E24	京都工芸繊維大学EV
5	E05	富山大学EV
6	E08	山梨大学EV
7	E11	National Taiwan University EV
8	E10	東北大学EV
9	E06	静岡大学EV
10	E12	Universitas Gadjah Mada EV
11	E07	横浜国立大学EV
12	E18	トヨタ名古屋自動車大学校EV
13	E13	日産京都自動車大学校EV
14	E15	福井大学EV
15	E14	National Yang Ming Chiao Tung University EV
16	E09	上智大学EV
17	E19	神奈川工科大学EV
18	E16	愛知工業大学EV
19	E20	ものづくり大学EV
20	E26	静岡理工科大学EV
21	E22	東京工科大学EV
22	E21	Institut Teknologi Sepuluh Nopember EV
23	E28	National Cheng Kung University EV

この競技活動を支えるのが自動車・部品メーカーだ。資金支援に加え、部品や技術の提供、チームへの継続的なサポートなども取り組む。会場には企業ブースも設けられ、製品や技術を紹介するとともに、学生との接点づくりを進めた。

EV・SDVで広がる技術領域。EVクラスの定着も進む。BMS(バッテリーマネージメントシステム)やモーター制御システムなど、軽量化は大学だけでなく、高専や専門

学生フォーミュラの活動は、車両を完成させて競技に参加するだけではない。レースやコスト管理、資金調達、スケジューリング管理など、プロジェクト管理能力も求められる。大学だけでなく、高専や専門

「走るから入財へ」。学生フォーミュラの活動は、車両を完成させて競技に参加するだけではない。レースやコスト管理、資金調達、スケジューリング管理など、プロジェクト管理能力も求められる。大学だけでなく、高専や専門

「走るから入財へ」。学生フォーミュラの活動は、車両を完成させて競技に参加するだけではない。レースやコスト管理、資金調達、スケジューリング管理など、プロジェクト管理能力も求められる。大学だけでなく、高専や専門

「走るから入財へ」。学生フォーミュラの活動は、車両を完成させて競技に参加するだけではない。レースやコスト管理、資金調達、スケジューリング管理など、プロジェクト管理能力も求められる。大学だけでなく、高専や専門

「走るから入財へ」。学生フォーミュラの活動は、車両を完成させて競技に参加するだけではない。レースやコスト管理、資金調達、スケジューリング管理など、プロジェクト管理能力も求められる。大学だけでなく、高専や専門

「走るから入財へ」。学生フォーミュラの活動は、車両を完成させて競技に参加するだけではない。レースやコスト管理、資金調達、スケジューリング管理など、プロジェクト管理能力も求められる。大学だけでなく、高専や専門

「走るから入財へ」。学生フォーミュラの活動は、車両を完成させて競技に参加するだけではない。レースやコスト管理、資金調達、スケジューリング管理など、プロジェクト管理能力も求められる。大学だけでなく、高専や専門

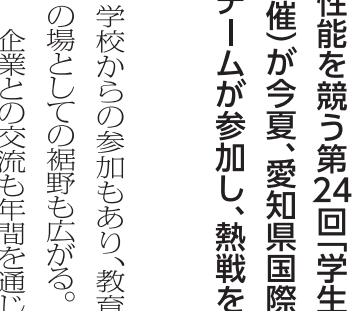
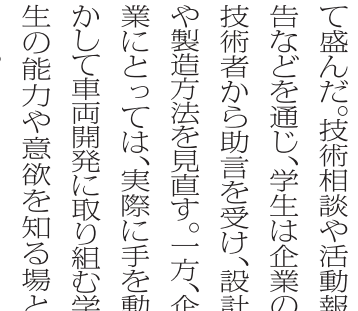
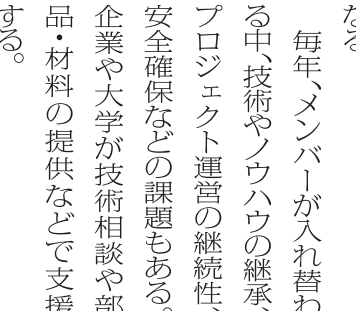
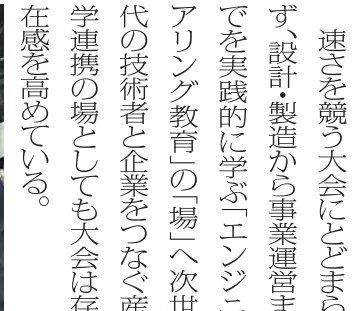
「走るから入財へ」。学生フォーミュラの活動は、車両を完成させて競技に参加するだけではない。レースやコスト管理、資金調達、スケジューリング管理など、プロジェクト管理能力も求められる。大学だけでなく、高専や専門

「走るから入財へ」。学生フォーミュラの活動は、車両を完成させて競技に参加するだけではない。レースやコスト管理、資金調達、スケジューリング管理など、プロジェクト管理能力も求められる。大学だけでなく、高専や専門

「走るから入財へ」。学生フォーミュラの活動は、車両を完成させて競技に参加するだけではない。レースやコスト管理、資金調達、スケジューリング管理など、プロジェクト管理能力も求められる。大学だけでなく、高専や専門

「走るから入財へ」。学生フォーミュラの活動は、車両を完成させて競技に参加するだけではない。レースやコスト管理、資金調達、スケジューリング管理など、プロジェクト管理能力も求められる。大学だけでなく、高専や専門

「走るから入財へ」。学生フォーミュラの活動は、車両を完成させて競技に参加するだけではない。レースやコスト管理、資金調達、スケジューリング管理など、プロジェクト管理能力も求められる。大学だけでなく、高専や専門



HKS
株式会社エッチ・ケー・エス

自動車チューニング
業界のパイオニア。
夢に向かって挑戦する
若き技術者を
応援します。

<https://www.hks-global.com/>

トヨタ モビリティ・パーツ株式会社 静岡支社

クルマを売っていないつくっていない
けど、安全安心を支える会社

新卒積極採用中！

当社の事は
こちらから
チェック！

モビリティ
パーツ
TOYOTA

会社 HP

その課題、樹脂なら解決できるかも。

樹脂道

樹脂の可能性を追求し、次世代モビリティの
電動化・小型軽量化・運転支援の高度化に貢献

住友ベークライト株式会社

<https://www.sumibe.co.jp/>

HORIBA

おもしろおかしくの力で
何が出来るのだらう。

What is the power of Joy and Fun?

HORIBAのビジョンとは？
コチラの特設サイトから▶

YOKOHAMA
横浜ゴム株式会社

時代に先駆ける技術に
一人ひとりの心をこめて、
地球と社会の豊か
さに貢献していきます。

www.y-yokohama.com

YANASE なら、夢まで乗せられる。
「あなたが思い描く夢」に、アクセルをかける。

YANASE

クルマへの
情熱を、
仕事に。

採用情報はこちら▶

株式会社ヤナセホールディングス

高分子の可能性を追求し、
より良い移動と暮らしを未来につなぐ会社

エアバッグ ハンドル フロントグリル

高圧水素タンク トアガラスラン

TOYODA GOSEI

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

ゴツイのも、
いいぞ。

新明和工業株式会社は、
ダンプトラック、脱着車、テールゲートリフタ、
塵芥車等、「はたらくクルマ」づくりの
スペシャリスト集団です。

新明和工業株式会社

VR 工場見学
採用 HP

革新的なものが作られる前には、
革新的な素材が作られている。

PROTERIAL

株式会社プロテリアル

HONDA
Honda Techno Fort

Honda車の商品開発企業です。



**スズキ 生産技術本部
ものづくり推進部
樹脂二輪船外機生技課**

花村 勇哉

社会へ羽ばたくOB・OG

リレーエッセイだから話せる 本音とこれから

**コーディネーターの
花村さんに聞く**

「読者は学生も多い。連載を通じて伝えたいことは」

「学生フォーミュラの活動を通じて良かったことだけでなく、苦戦や失敗も含めた当時の素直な気持ちを書いてもらっている。エッセイで伝えたいのは、失敗も決して無駄ではないこと。取り組みのプロセスから結果までを振り返りながら、どのように解決に導いたか。こうした経験の積み重ねが、将来の仕事にも生きてくる。活動の中で迷いが生じることもあると思うが、エッセイから何か答えが見えれば嬉しい」

「執筆する人選で意識しているのは」

「自動車業界に進んだ人だけでなく、幅広い業界から声掛けをしている。また、大学以外に高専・高専専門学校や専門学校を卒業したOB・OGも対象に加えた。連載では特定の出身大学や自動車メーカー、ティアー（一次サプライヤー）にならずとも偏りやすい。学生フォーミュラに関わった人の中には、機械加工が好きで入った人もいるし、経済学部で経営学が学生もいる。卒業後さまざまな場所から活躍するOB・OGを取り上げていきたい」

「エッセイの魅力や印象に残ったエピソードは」

「フロの手が入っていない、素人だからこそ良さがある。形式も自由なため、過去の自分に対して手紙形式でつづったエッセイも

あった。一緒にやってきた仲間達に『こんな苦労があったのか！気づきを得られたり、読むタイミングや立場によって見方が変わったりする点も魅力だと考えている』

「今後の展望は」

「SNS（交流サイト）を活用し情報を即時に発信できるようにしたが、リレーエッセイは大学・大学院での4～6年間の活動とその後を見つめ直す場として、良い機会になっている。読者を増やす施策として、昨年には競技会場の掲示を行い、反響が得られた。また、じっくり読み返してもらえるように、これまでのエッセイをデジタルブックにまとめている。皆様にも是非、貰いたければ嬉しい」

リレーエッセイ
「学生フォーミュラの日々そして今」
デジタルブック 閲覧はこちらから



ここでしか聞けない、見られない魅力がたくさん！

自動車業界の現役社員が案内する ガイドツアーに密着

自動車業界で活躍する未来のエンジニアを育てる学生フォーミュラJAPANの会場には、日ごころの頑張りを見守る家族のほか、採用活動に役立てたいスポンサー企業が多く訪れる。自動車技術会では、競技の魅力を分ちかやくと伝えようとガイドツアーを毎年企画する。ガイドとして5年目を迎えるアイシンの製品開発センター技術開発本部に所属する高橋泰史さんは「このチームが勝つかではなく、学生たちがこの日を迎えるまでに何を学ばせたかを伝えていきたい」と話す。

ツアーの開催は会期6日間のうち、一部会場設営中の初日を除いて対応しており、所要時間は各30分程度。マンの整備や調整を行うピットから車検などを行う静的エリア、走行性能を競う動的エリアをガイドが案内する。アイシンのほか、自動車メーカーの社員など総勢20人が案内役を務める。今年は夏休み中の開催とあって、親子連れの来場も目立った。

各競技では細かなルールが定められ、初見では分かりにくい内容も多い。ツアーでは「スポンサーが集まる強豪校の一方で、学生がアルバイトをやっていけるのかという基本的なところはもうろん子供が出場している家族には該当するピットを案内し、スポンサーには使用部品に関する質問にも答える。参加者に応じて内容を変えるため、幅広い知識が求められるという。

また、自動車の開発の現場を知る生の声や学生との交流を通じて聞いた裏話が聞けるのも、ツアーの特色だろう。高橋さんはアイシンとして部品を提供する27大学でできる限り足を運び、学生と積極的に対話を重ねてきた。

「スポンサーが集まる強豪校の一方で、学生がアルバイト

で出場にかかる費用をまかなうチームもあること、華やかな競技の裏にある苦労にも目を向ける。さらに理論や公式ではなく、リアルなクルマの開発に学生から取り組んでいるのは、本当にすごいこと強調する。

ガイドツアーの参加者から「おもしろかった」「自動車業界に興味を持つきっかけになった」という声を聞くとうれしいと話す高橋さん。大会の魅力を伝える黒子として、今後は「後継者」の育成にも取り組んでいく。

参加者に合わせてガイド内容を工夫するアイシンの高橋泰史さん(中央)

HAYASHI

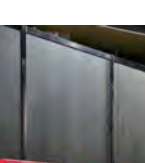
TELEMPU

本気の経験は、
一生の武器になる。

マイページへの
エントリー募集中!

創造する信頼のパートナー

ALTIA



株式会社
アルティアは
自動車整備
検査機器専門
メーカーです



採用 QR

<https://altia.co.jp>

ANZEN
安全自動車株式會社

創立108年
クルマが安全
に走行するた
めの検査設備
を創り続けて
います！

<https://www.anzen.co.jp>

IYASAKA

目指すものは
人と車のより良い関係。

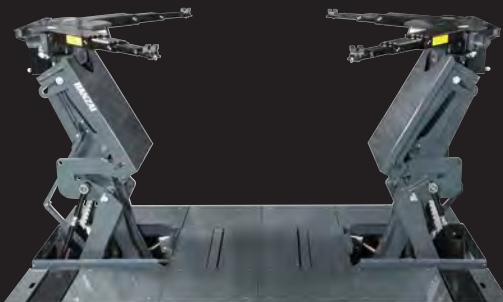
 猿イヤサカの
マスコット
キャラクター
i-bou
アイボウ

<https://www.iyasaka.co.jp>

Since 1920

BANZAI

自動車整備機器の総合商社



<https://www.banzai.co.jp>



JF 一般社団法人
日本鍛圧機械工業会
JAPAN FORMING MACHINERY ASSOCIATION

人と地球にやさしい技術、未来につなぐものづくり

第9回 プレス・板金・フォーミング展

MF-TOKYO
2027



2027年6月23日(水)~26日(土) 10:00~17:00 【受付時間】

東京ビッグサイト 東ホール














一緒に *Waku Waku* しませんか？

つうぎ研4042



SAGInoMIYA
株式会社鷺宮製作所

実機とシミュレーションを融合した
先進の試験装置でものづくりをサポート！



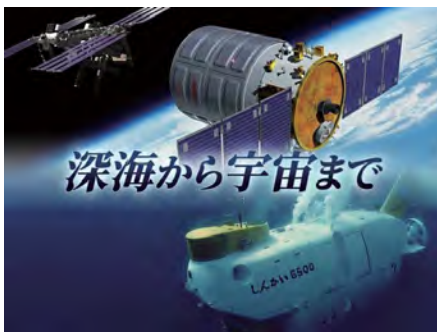
<https://www.saginomiya.co.jp/>

GS YUASA

深海から宇宙まで

GSユアサは、電池の技術で人と
社会と地球環境に貢献します。

<https://www.gs-yuasa.com/jp/>



Jatco



変化を楽しめ。

技術で未来を切り拓く。

ジャトロコはモビリティ・イノベーターへ。

動的審査

—今年の大会で学生の良かった点

今年の大会は例年以上にイレギュラーな対応が求められましたが、多くの学生が最後まで諦めずに挑戦を続けていました。思い描いた結果に届かなかったチームもあったと思いますが、その悔しさを乗り越えて前進する姿に大きな感動を覚え、学生たちの成長とたくましさ強く感じました。

—来年に向けてのメッセージ

学生フォーミュラは、挑戦した人にしか味わえない感動と成長があります。今年の悔しさも達成感も、すべてが皆さんを強くする糧です。限界を決めず、仲間を信じ、自分を信じて最後まで挑戦し続けてください。来年、さらに進化した皆さんの走りや情熱に出会えることを心から楽しみにしています。

審査リーダー
中澤 広高

車検

—今年の大会で学生の良かった点

大会開催が例年より約1カ月早まり、車両製作の期間が限られる中、車検合格率は昨年を上回りました。「自分たちのマシンを走らせたい」という学生たちの強い思いと、限られた時間の中で積み重ねた努力が、結果として表れた大会だったと感じています。

—来年に向けてのメッセージ

今年の反省を踏まえ、来年の車検では新たな検査項目の追加が見込まれます。その目的は、学生の安全を守り、アクシデントによる大会中断を防ぐことにあります。来年はこれまで以上に「安全」を意識し、安心して走らせられる車両づくりに取り組んでほしいと思います。

審査リーダー
清水 俊成

コスト審査

—今年の大会で学生の良かった点

コストと製造の審査の上位校は今年も部品図をきちんと書き、工程図も付けてコストレポートを仕上げてきている。部品設計の基本は製造工程を理解し、造れる部品図を描くこと。これが出来ていればコストが計算でき、おのずと得点も高くなる。来年は下位校もがんばってほしい。

—来年に向けてのメッセージ

今年も満点のチームがいなかった。シナリオスコアは設計変更が必要になった時の設計変更提案書を模擬して、上司が納得の出来る提案書が満点になる。学生には少し難しい課題ではあるが、企業に就職して開発業務に携わると避けては通れない内容なので、よく考えてほしい。

審査リーダー
鈴木 健

E V

—今年の大会で学生の良かった点

大会初日に大きなトラブルが発生し、車検が中断、競技継続が危ぶまれる中、それでもモチベーションを落とすことなく最後まで全力で競技に挑戦してくれた姿勢に感動を覚えました。また車両完成度も非常に高く、近年まれにみる出来栄にも大変感動しました。

—来年に向けてのメッセージ

来年はTBC(サマール・バッテリー・コンディショニング)単体の車検をするなど、今まで以上に安全面に注力した施策を追加検討していく予定です。学生の皆さんは設計段階から負荷が増えることとなりますが、この学びが君たちの今後のキャリアに生き、自動車業界の将来を担う貴重な人財に育ってくれと信じています。

審査リーダー
白井 和成

プレゼンテーション審査

—今年の大会で学生の良かった点

独創的な発想と社会課題への着眼点に加え、市場分析や事業計画、資料作成まで丁寧に準備されており、完成度の高い発表が多く見られました。質疑応答にも落ち着いて対応し、熱意と努力が伝わる素晴らしい大会でした。

—来年に向けてのメッセージ

来年はアイデアの魅力に加え、市場規模や収益性、実現可能性を示す定量的な根拠をさらに深掘りしてほしいと思います。今年の経験を糧に、より説得力のある提案と自信に満ちた発表で挑戦されることを期待しています。

審査リーダー
増田 貴彦

デザイン審査

—今年の大会で学生の良かった点

学生フォーミュラは、限られた1年間でマシンを企画・開発・製造・評価し、大会に挑む活動です。今年は開催時期が早く、11カ月での準備となる中、前年の課題を踏まえ、OB/OGやスポンサー、大会からの助言を生かして改善を重ねる姿が印象的でした。多くの関係者を巻き込む経験が、将来の成長につながることを期待します。

—来年に向けてのメッセージ

これまでの活動を振り返り、次の目標に向けて十分な情報を収集することが重要です。高い目標を掲げるだけでなく、数値目標や達成計画を定め、予実管理を行いながら着実に取り組んでほしいと思います。活動を通じて培う課題解決力や対応力が、将来の産業界で活躍する力につながることを期待します。

審査リーダー
齋藤 拓也

スポンサーPRコーナー紹介

競技会場では、自動車メーカーやサプライヤー、開発支援ツールを手がける企業などがブースを構え、技術紹介と採用活動に力を入れた。今年は「アジア競技大会」の影響で例年の9月上旬から約1カ月前倒しされたほか、展示スペースも縮小された。実車の展示が難しくなったが、各社は、コンセプト紹介や動画、実際に触れられる部品、ゲームなどを組み合わせ、学生との接点づくりに工夫を凝らした。

日産自動車とジャトコは、学生フォーミュラの電気自動車(EV)向けに開発したユニットを初披露した。モーター、インバーター、減速機を一体化した「3イン1」タイプ。従来は「リーフ」向けのユニットをベースとしていたが、学生から寄せられた「より小型化したい」とのニーズを踏まえて開発した。会場では「来年使いたい」といった声が寄せられた。

サプライヤーも、普段は学生の目に触れにくい技術を見える化。した。初参加のジェイテクトはステア・パイ・ワイヤなどを展示。動画も活用して先端技術を分かりやすく紹介し、現在のフォーミュラカーだけでなく、将来の自動車技術との接点を示した。

この他にも、ブレーキの摩擦材による違いなど、部品の役割や大きさ、重さを直感的に理解できる工夫を展開する工夫が随所で見られた。ゲーム形式で体験できる企画も見られ、学生自身に「触って、考えてもらう」展示が多かった。

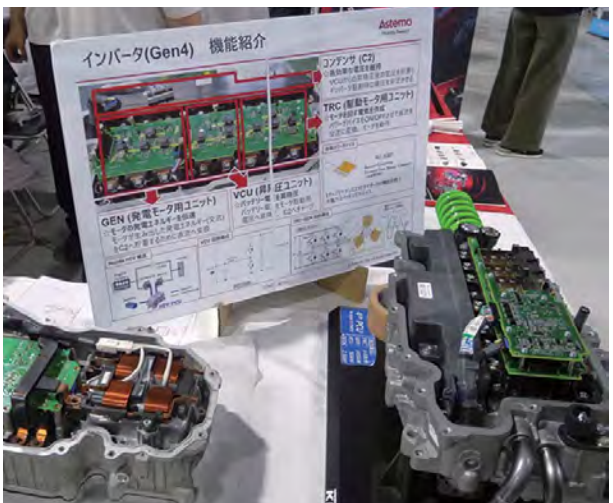
トヨタ自動車のように、実機の展示だけでなく、自社で働く学生フォーミュラのOB・OGの紹介にも力を入れる動きも広がった。「競技を通じて身につけた知識や経験が、実際の仕事でどう活かせるのか」をメッセージとして発信し、学生に入社後の姿をイメージしてもらう狙いだ。ダイハツも「学生フォーミュラのOBが多数活躍!」と大書したパネルを掲げるなど、展示会を技術紹介だけでなく、人材獲得につなげる場として活用する。学生フォーミュラ経験者が企業側に回り、後輩に仕事や技術を伝えるという好循環も生まれている。

学生への訴求の工夫もさまざま。NOKは、シーリングなどの部品を紹介するとともに、B2C(消費者向け)製品として手がけるヘアゴムも配布。「女子学生だけでなく、長髪の男子学生にも受けた」と満足げだ。外からは見えない部品を身近な製品と組み合わせ、学生の興味を引きつけた。ミネベアミツミは主要製品や国内外の生産拠点を紹介する学生フォーミュラ向けのオリジナルハンドブックを学生に配布した。



若手社員が説明に汗を流したところ(ミネベアミツミ)

こうした取り組みは、企業側の人材育成にもつながる。若手社員らが、準備段階から展示企画に携わって技術をどう分かりやすく伝えるか考えたり、ブースの合間に学生の車両や他社の展示を見て学んだりという機会にもなった。



部品の内部構造をわかりやすく展示(アステモ)

PR賞受賞チームの対談

学生フォーミュラでは、SNSやイベントへの参加といった広報活動を通じて、競技の認知度向上に貢献した大学に対し、PR賞を授与している。昨年、ICV部門で受賞した九州工業大学、カセサート大学(タイ)、EV部門で受賞したITSスラバヤ工科大学(インドネシア)に、広報活動の狙いや競技の魅力を伝える意義について聞いた。

対談参加者

タイ・カセサート大学

- ① プムナパット・ナリスパキン
- ② スパッチャー・ディーリム

ITSスラバヤ工科大学

- ③ ファドリ・アズィーム
- ④ アニサ・イスナニア・パッパツラツカ

九州工業大学

- ⑤ 曽我井天信

「PR賞ではどのような点を評価されたと考えているか」
⑤ 天信「チームだけでなく、学生フォーミュラ(学生F)の活動全体を知ってもらいたいという思いがあった。発信を通じて、いろいろな人に活動を知ってもらえたことが大きかった。また、レーシングドライバーの協賛寿一さんとYouTubeのコラボ企画を行い、モータースポーツファンや車好きにも活動を知ってもらえた。」

② スパッチャー「オープンキャンパスで学生に活動を知ってもらったほか、チームの活動を発信することで、スポンサーへの共感を得ることに取り組んだ」
① プムナパット「彼女(スパッチャー)は、スポンサー向けのコンテンツ制作やチームの活動をアピールする機会の創出、そしてチームの認知度向上などを担っている。私たちはタイ国内での知名度はそれほど高くないが、チャンピオンを目指すチームだ。プロモーション方法を絶えず刷新すること、大手スポンサーを獲得できる可能性を高めることもつながる」

④ アニサ「海外では認知度に課題があるようだが、広報活動で工夫したことは」
⑤ ファドリ「多くの人は、単にサーキットで速さを競うだけだと思いがちだが、実際にはもっと多角的な要素で競い合っていることを説明する必要がある」
① プムナパット「車両をSNSに投稿しても人によって、は市販車だと思われ入る。私たちの目標は、単にサーキットを走るだけでなく、タイムを追求するために何をしているのか、活動の過程や姿勢を見せることが重要だ」



左手前から時計回りにプムナパット・ナリスパキン、スパッチャー・ディーリム、アニサ・イスナニア・パッパツラツカ、ファドリ・アズィーム、曽我井天信

④ アニサ「まさにその通り。私たちが目指しているのは、工学の未来をより良くなる上での重要な役割を果たすこと」
⑤ ファドリ「多くの人は、単にサーキットで速さを競うだけだと思いがちだが、実際にはもっと多角的な要素で競い合っていることを説明する必要がある」

② スパッチャー「こうした活動に興味を持って学生を増やすことが、競技人口の拡大にもつながっているよね」
④ アニサ「まさにその通り。私たちが目指しているのは、工学の未来をより良くなる上での重要な役割を果たすこと」

① プムナパット「学生Fは若い世代がモータースポーツ業界やレーシング産業へのキャリアパスを築くための手段の一つになっている。私たちは車に関わる仕事を心から愛している。この活動は、さまざまな活躍できる人材を数多く創出していると言える」

SEKISUIKASEI

「軽さ」への挑戦が、モビリティの未来を拓く。


<https://www.sekisuiCASEI.com/>

JARI
JAPAN AUTOMOBILE RESEARCH INSTITUTE

中立的な立場で
自動車業界の課題を解決



一財) 日本自動車研究所

DIXCEL
ADVANCED BRAKE TECHNOLOGY



学生フォーミュラは、学生たちの挑戦から生まれた、未来のモビリティ。

私たちはその挑戦を応援します。


<https://www.dixcel.co.jp/>

Supporting Your Movement.
AIDO METAL

世界唯一の
総合すべり軸受メーカー

自動車エンジン用半割すべり軸受・
船用低速エンジン用すべり軸受で世界トップシェア


<https://recruit.daidometal.com/>

ICV表彰

総合表彰

賞名	受賞校
経済産業大臣賞	同志社大学
愛知県知事賞	同志社大学
常滑市長賞	同志社大学
日本自動車工業会会長賞	京都工芸繊維大学、同志社大学、大阪大学、KasetSart University、日本自動車大学校、岐阜大学、北海道大学、千葉大学、九州工業大学、日本工業大学、ホンダテクニカルカレッジ関東、立命館大学、北九州市立大学、岡山大学、神戸大学、帝京大学、京都大学、ホンダテクニカルカレッジ関西、広島工業大学、芝浦工業大学、東京都市大学、東海大学、東京農工大学、埼玉大学、新潟大学
日本自動車部品工業会会長賞	京都工芸繊維大学

種目別表彰

賞名	受賞校
デザイン賞	1位：同志社大学 2位：九州工業大学 3位：大阪大学
コスト賞	1位：京都工芸繊維大学 2位：神戸大学 3位：同志社大学
プレゼンテーション賞	1位：同志社大学 2位：京都工芸繊維大学 3位：九州工業大学
加速性能賞	1位：九州工業大学 2位：千葉大学 3位：北海道大学
スキッドパッド賞	1位：同志社大学 2位：大阪大学 3位：北海道大学
オートクロス賞	1位：同志社大学 2位：北海道大学 3位：京都工芸繊維大学
耐久走行賞	1位：同志社大学 2位：大阪大学 3位：日本自動車大学校
省エネ賞	1位：ホンダテクニカルカレッジ関東 2位：日本工業大学 3位：岡山大学

特別表彰

賞名	受賞校
ベスト車検賞	1位：大阪工業大学 2位：同志社大学 3位：日本工業大学
最軽量化賞	広島工業大学
ベスト三面図賞	1位：北海道大学 2位：東海大学 3位：京都工芸繊維大学
ベストコンボジット賞	1位：東海大学 2位：京都工芸繊維大学 3位：京都大学
エルゴノミクス賞	1位：同志社大学 2位：日本大学理工学部 3位：京都工芸繊維大学
ベストエアロ賞	1位：KasetSart University 2位：同志社大学 3位：早稲田大学
MathWorks賞	1位：広島工業大学 2位：同志社大学 3位：KasetSart University
スポーツマンシップ賞	——
PR賞	1位：Kasetsart University 3位：Universiti Putra Malaysia

EV表彰

総合表彰

賞名	受賞校
国土交通大臣賞	名古屋大学EV
愛知県知事賞	名古屋大学EV
常滑市長賞	名古屋大学EV
日本自動車工業会会長賞	名古屋大学EV、名古屋工業大学EV、東京大学EV、富山大学EV、静岡大学EV、横浜国立大学EV、山梨大学EV、上智大学EV、東北大学EV、National Taiwan University EV、Universitas Gadjah Mada EV、日産京都自動車大学校EV、福井大学EV、愛知工業大学EV、トヨタ名古屋自動車大学校EV、ものづくり大学EV、京都工芸繊維大学EV
日本自動車部品工業会会長賞	名古屋大学EV

種目別表彰

賞名	受賞校
デザイン賞	1位：名古屋大学EV 2位：名古屋工業大学EV 3位：National Taiwan University EV 3位：Universitas Gadjah Mada EV
コスト賞	1位：名古屋大学EV 2位：山梨大学EV 3位：名古屋工業大学EV
プレゼンテーション賞	1位：National Taiwan University EV 2位：名古屋大学EV 3位：東京大学EV
加速性能賞	1位：名古屋大学EV 2位：東京大学EV 3位：山梨大学EV
スキッドパッド賞	1位：名古屋大学EV 2位：名古屋工業大学EV 3位：富山大学EV
オートクロス賞	1位：名古屋大学EV 2位：東京大学EV 3位：名古屋工業大学EV
耐久走行賞	——
省エネ賞	——

特別表彰

賞名	受賞校
ベスト車検賞	1位：東北大学EV 2位：東京大学EV 3位：愛知工業大学EV
最軽量化賞(EV)	名古屋大学EV
ベスト三面図賞	1位：Institut Teknologi Sepuluh Nopember EV 2位：名古屋工業大学EV 3位：上智大学EV
ベストコンボジット賞	1位：名古屋工業大学EV 2位：名古屋大学EV 3位：東京工科大学EV
エルゴノミクス賞	1位：名古屋工業大学EV 2位：富山大学EV 3位：名古屋大学EV
ベストエアロ賞	1位：名古屋工業大学EV 2位：Universitas Gadjah Mada EV 3位：National Taiwan University EV
MathWorks賞	1位：名古屋工業大学EV 2位：Institut Teknologi Sepuluh Nopember EV 3位：東北大学EV
スポーツマンシップ賞	東京大学EV
PR賞	2位：Institut Teknologi Sepuluh Nopember EV

インタビュー



大会委員長
木村 英輔

本田技術研究所
SDV商品対外連携・渉外統括
エグゼクティブチーフエンジニア

―学生フォーミュラと自動車業界の結びつきについて

「モータースポーツを題材とした『ものづくり・デザインコンペティション』の大会であり、自動車をイチから作ることを学ぶ人材育成のプラットフォームとして続いている。1年間かけて構想・設計からコスト管理・デザイン・プレゼンテーションに至るまで、車を作るプロセスを経験することで、学生は総合力を身に付けられる。これは自動車産業にとって非常に大きな意義がある」

―自動車業界が変革期にある中で、大会を継続する意義は

「『電動化や燃料の多様化により、協力していただくスポンサーやサプライヤーも新たに開拓しなくてはならない。EV（電気自動車）ではモーターや電池は欠かせない。それだけでなく、新しい技術の知見を持った人材が求められている。ソフトの領域で諸外国に後れを取らないためにも、新たな技術にまで領域を拡大する必要があるだろう。運営側も変わっていくために、学生の興味や関心など意見を積極的に聞いていく」

―今後の課題は

「電動化や燃料の多様化により、協力していただくスポンサーやサプライヤーも新たに開拓しなくてはならない。EV（電気自動車）ではモーターや電池は欠かせない。それだけでなく、新しい技術の知見を持った人材が求められている。ソフトの領域で諸外国に後れを取らないためにも、新たな技術にまで領域を拡大する必要があるだろう。運営側も変わっていくために、学生の興味や関心など意見を積極的に聞いていく」

―学生へのメッセージを

「活動で得た仲間・経験は必ず将来の財産になる。今しかできないことに思い切り取り組んでほしい。企業が求めるのは技術力だけではなく、挨拶や笑顔、報告・連絡・相談、物事を伝える力も重要だ。人として成長してほしい。もう一つ大切なのは経験。次世代に残すこと。強いチームは、活動記録などをしっかり残し、先輩の経験を引き継いでいる。『スベスベ』をうまく活用し、自社の魅力を伝える工夫をさせるように文化を育てたい」



実行委員長
砂子 直人

ホンダ・レーシング
四輪レース部 開発室 第4ブロック
チーフエンジニア

―大会の意義を改めて

「熱中症対策を最優先に休憩時間設定など運営面でも工夫をした。また、例年のように最後の仕上げをする時間を十分に取れなかったチームもあったはず。最大限のマシンを作ってきた学生に敬意を表したい」

―チームで特に印象に残っている

「たこ焼きは沼津高専の飛躍だ。比較的、新しいチームながら動的審査に進み、高専単独チームとして23年ぶりの走行を実現した。こうしたチームの成長も楽しんだ」

―OB・OGが運営側に戻ってくる

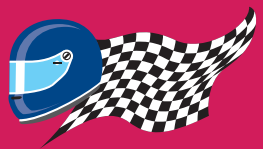
「初期のフォーミュラを経験した世代が社会人として一定の立場になり、運営側に戻ってくる。経験者だからこそ学生の思いもわかり、厳しさと優しさも含め経験を次世代に伝える。いい循環だ」

―企業の出展も盛んだ

「スベスベをうまく活用し、自社の魅力を伝える工夫をさせるように文化を育てたい」

学生フォーミュラ2026
参加チームのコメント

カーナンバー／大学名／チーム名



C21 岡山大学

OUPF

私たちOUPFは、より高順位を目指すためエンジン変更をしました。大きな変更となりトラブルも多かったですが、チーム一丸となり全力で対応しました。結果として、チームとして最高順位の15位を取ることができました。スポンサー様、チームメンバーの皆さまありがとうございます。野村拓斗／3年

C30 広島工業大学

HIT FORMULA Project

軽量コンパクトをコンセプトに、高い旋回性能と安定性を目指した車両開発に取り組み、チーム史上最高の427.33ポイント・21位を達成しました。1年間の活動の成果を形にすることができ、チームとして大きな達成感を得られた大会となりました。今後もさらなる成長を目指して活動してまいります。大下晴矢／4年

C45 久留米工業大学

久留米工業大学フォーミュラプロジェクト

大会初日からトラブルが続き予定通りに進まない中、メンバー全員が柔軟に対応し技術車検を通過できました。その後はアクセラ、スキッドパッドに出走り、エンデュランスは時間切れで悔しい結果となりましたが、全力を尽くしてチームの成長を実感できた大会でした。河野光／3年

E09 上智大学

Sophia Racing

今回の大会に向けて弊チームではより大型のバッテリーを搭載しパワートレインを刷新しました。パワートレイン関連のトラブル等に見舞われましたが何とか大会最終日に動的イベントへの参加ができました。今回の大会結果を踏まえて来年はより洗練された車両で参加します。佐久間旺輔／2年

C13 山口東京理科大学

SOCU Formula

今大会では、エンデュランスの走行が叶わず、大きく順位を落としてしまい、応援してくださいだったスポンサーの皆様、卒業生の方々には申し訳ない気持ちでいっぱいです。次回大会では、成長したチームとマシンでシングルナンバーを獲得できるよう頑張ります。森本楓生／2年

C22 神戸大学

神戸大学学生フォーミュラチームFORTEK

今回の大会では、エンデュランスの完走はできませんでしたが、もっと出来たという悔しさも残りしました。それでも、大会まで様々な困難があった中で、なんとか乗り越え、走り切れたことは嬉しかったです。来年度は、各班の力をまとめ上げ、より高い順位を目指して欲しいです。西館優衣／3年

C32 芝浦工業大学

Shiba-4

変則的な対応が求められる大会でしたが、その中でもさまざまな企業さまや支援者様のご支援及びご指導で大会が運営されている事を強く認識させられる大会でした。チームとしては、2023年に5年ぶりの全種目完走を達成して以来、なかなか成績を安定させる事が出来ずにいました。その中で去年のリタイヤから今年は何があっても完走はしなければいけない年でした。大会中にさまざまなトラブルがありましたが、悔いの残らないように運営していたきき本当にありがとうございました。島津琴乃／3年

C54 青山学院大学

AGRC青山学院大学学生フォーミュラプロジェクト

少人数という壁を越え、AGRC初の動的審査通過を果たし感無量です。一方で、動的審査を迎えたことで分かった課題も多々ありました。来年はそこをしっかりと改善し今年より上位を目指せるように頑張ります。永野由真／3年

E10 東北大学

東北大学フォーミュラチームTUFT

静的審査などで失点もあり当初の目標は達成できませんでしたが、オートクロスにてチームベストを更新するなどマシンの成長を感じられた大会でした。今大会出しきれなかった部分の悔しさを糧に来年度はより上位に食い込めるようまた1年励みたいと思います。竹内祐太郎／3年

C15 立命館大学

Ritsumei Racing

今大会は、車検もスムーズに通過し、動的全種目完走を果たすことができましたが目標として掲げていたICV総合一桁順を達成することはできませんでした。動的種目では良い成績を収めることができましたが、弱点である静的種目の得点アップと更なる動的種目での得点アップを果たして上位を目指します。三宅悠斗／3年

C25 帝京大学

帝京フォーミュラプロジェクト

イレギュラーが多く、チーム力が問われる大会でしたが、逆境を乗り越え、エンデュランス9位、総合16位と過去最高の順位を記録することができました。信頼性の高いマシンを作るとい弊チームの心掛けが活きた大会だと考えています。河合輝／3年

C36 東京都市大学

Mi—Tech Racing

今年度、イレギュラーが多かった大会でしたが、チームで全力で取り組んだ結果、8年ぶりの全種目完走と目標順位であった20位を達成できました!!努力が実って大変嬉しく思います。来年度はこのマシンを教科書とし、さらなる上位を目指していきます! 関口滉大／2年

C57 豊田工業高等専門学校

NITTC Racing

弊チームは静的審査のみとなり悔しさの残る結果となりました。しかしながら、多くのチームと交流したくさんの学びを得ることができました。この経験を糧に、来年の大会では必ず出走できるようチーム一丸となって準備を進めていきます。駒崎和真／4年

E13 日産京都自動車大学校

Natck—F

どんな状況でも全力を尽くす大切さを学んだ、とても価値のある大会となりました。一人ひとりが責任を持って行動し、車検含めチーム史上最高のパフォーマンスを発揮できました! 全員で一つになって走り抜けた経験は、私たちにとって最高の財産です! 菅起人／4年

「開発の現場も、今までの機械工学や電気工学だけでなく、新たにソフトの領域の知見を持った人材が求められている。ソフトの領域で諸外国に後れを取らないためにも、新たな技術にまで領域を拡大する必要があるだろう。運営側も変わっていくために、学生の興味や関心など意見を積極的に聞いていく」

―OB・OGに期待を

「自動車メーカーやサプライヤーにいるOB・OGを含めて、学生フォーミュラ出身者が大会運営のボランティアとして参加している。日本のものづくりを伝承するため、積極的に運営に関わってほしい。学生の憧れとなる手本として、やりがいを感じてもらえるはずだ」

C28 ホンダテクニカルカレッジ関西

HTEC-E Formula Project

今回、2年連続完走と総合順位20位以内を目標に大会に臨みました。結果は22位でしたが、エンデュランスではマシントラブルを抱えながらも、チーム全員で力を合わせて完走を果たすことができました。来年は安定した完走とさらなる順位向上を目指します。加藤聡司／3年

E02 名古屋工業大学

N.I.T formula project

目標達成には至らず悔しい結果となりましたが、この1年間でチームは確実に成長することができました。今回の経験を糧に、来年度はさらに成長し、より良い結果を目指して挑戦します。この場をお借りして、ご支援いただいたスポンサー企業の皆様、先生方、大会運営関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。村瀬海輝／3年

E22 東京工科大学

TOKYO UT formula

新たに製作したマシンでしたが、シェイクダウンを撮影できず、実際に走行させることは叶いませんでした。しかし、展示しているだけでも多くの方から好評をいただき、今後の走行に向けた大きな励みとなりました。来年度は動的種目への出場を目指し、チーム一丸となって頑張ります! 宮坂翔吾／2年

大会DATA 2026

来場者数

開催日	来場者数(延べ人数)
8月2日(日)	2,329人
8月3日(月)	2,709人
8月4日(火)	2,867人
8月5日(水)	4,070人
8月6日(木)	5,750人
8月7日(金)	4,132人
計	21,857人

参加チーム数

クラス	国内	海外	合計
ICV	50	4	54
EV	18	5	23
合計	68	9	77

車検通過台数

クラス	国内	海外	合計
ICV	44	2	46
EV	16	3	19
合計	60	5	65

エンデュランス完走台数

※EVはオートクロス完走対象

クラス	国内	海外	合計
ICV	24	1	25
EV	[15]	[2]	[17]
合計	24	1	25

